



大阪+知的障害+地域+おもろい=創造

知の知の知の知

社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所情報誌通算 4279 号 2018.3.24 発行

京大が紙おむつ共同開発 トイレ成功でご褒美シール 京都新聞 2018年3月23日
 発達科学の知見を生かして京大とユニ・チャームが共同開発した新トレパンマン=京都市左京区・京大



京都大とユニ・チャームは23日、発達科学の知見を生かしたトイレトレーニング専用紙おむつ「新トレパンマン」を共同開発したと発表した。トイレに成功するとご褒美シールを台紙に貼れるなど、達成感を覚えながらトイレに慣れることができるという。

新しいおむつにはこのほか絵を描けるスペースや、デザイン中に同じ絵が1組あることを見つける遊びのできる仕組みがある。楽しみながらおむつに愛着を持つことで、トイレに失敗しないようにとい

う動機付けができるとしている。

開発にかかわった京大教育学研究科の明和政子教授は「トイレトレーニングの負担をおむつで少しでも緩和したい」と話している。

3月上旬から順次、販売している。オープン価格だが店頭想定価格は税別で、Lサイズ21枚入りで898円前後など。

【舞台】ダンスカンパニー「ハンドルズ」公演 「見せる」喜びいっぱい

中日新聞 2018年3月24日
 金沢市のダンサーなかむらくるみさん(右)とハンドルズのメンバーのダンス

自分の体で表現したい、何かを伝えたいという気持ちで舞台上で躍動していた。三月十一日に金沢市大和町の市民芸術村パフォーミングスクエアであったダンサー・振付師の近藤良平さんと埼玉県の障がいのある人たちでつくるダンスカンパニー「ハンドルズ」の公演「初めての そんなふうな 気がしない」。金沢市内の障害者らも加わり、障害をあえて笑いにするコント、身体の特徴をそのまま生かしたダンスには、障害の有無を超えた「表現への意欲」があふれた。(松岡等)



金沢市民芸術村

コントも次々 沸く会場

近藤さんは、学ランを着た男性だけのダンス・カンパニー「コンドルズ」を主宰し、テレビなどでも活躍。埼玉県福祉関係部局からの誘いで二〇〇九年から彩の国さいたま芸

術劇場でほぼ年一回のペースでハンドルズの公演を続ける。今回はその初めての県外公演で、事前に金沢21世紀美術館で障害者とのダンスのワークショップを二度行い、公演に九人が参加した。

舞台では、ハンドルズメンバー八人と近藤さんのほか、手話通訳やコンドルズのメンバー、金沢市のダンサーなかむらくるみさん（28）が、障害の程度や特質もさまざまな人たちと絡みながら、時に障害についての「自虐ネタ」を交えた短いコントを次々に繰り出し、観客を引き込んでいく。

舞台上で表現する意欲と喜びがあふれたハンドルズの公演
＝いずれも金沢市大和町の市民芸術村パフォーミングスクエアで（C）池田ひらく、金沢21世紀美術館提供

なかむらさん演じるコケティッシュな女性の後を、三人の車いすの男たちがつけるダンス。見ようによってはストーカーを思わせ、なかむらさんは「どう受け取られるかヒヤヒヤしました」というが、少女が振り返るたびに男たちが恥ずかしがって素知らぬふりをして笑いをとる演出と、そのうち一人の男性と少女が恋に落ちて少女の手と男の足先が触れながら踊るドラマチックで美しいダンスが、そんな心配を吹き飛ばした。



また、向き合ったペアが静かな音楽の中でゆっくりと同じ動きをしようとする「合わせ鏡」のダンス。障害の違いから、相手と同じ動きにはならないけれど、そのことが、それぞれの身体の違いを浮き立たせ、人にはそれぞれに違いがあるという当たり前のことを観客は知らされる。

能楽師の安田登さんは著書「能 650年続いた仕掛けとは」で、『見られ、笑われる』受動的な芸能を、観阿弥・世阿弥は能動的なものへと逆転させた」と紹介している。ひきこもりの人たちとのプレゼンテーションのワークショップで、人前で緊張してしまう、外に出ると見られている気がしてしまうという人への対処法を「自ら『見せる』というスタンスに立ってしまえばいい」と。

同じ動きをしようとしながら、同じにならないことで人それぞれの違いが際立つダンス

「演者が『見せる』というスタンスに立った途端に、観客は『見せられている人』となり、今度は受身になる」。世阿弥はさまざまな手法を講じ、『見られる』存在から『見せる』存在への転換を「身分制社会の中で優美にこれを成し遂げた」という。



ハンドルズを続ける近藤さんは公演後に「手や足が思うように動かない、中には顔が動かなくても、表現できるということで自信を持つ。彼らは表現したくて仕方がないのだと思う」と話した。参加した金沢市の山口映子さん（61）は「五年前から車いすでの生活だが、上半身がまだまだ動いていることを表現したかった。充実感、達成感でいっぱい。車いすダンスでデビューできてこれ以上の幸せはない」と。舞台上で観客と向き合うことで得る喜びとは、自らが主体になれることにあるのだと、教えられる公演だった。

障害者の就労支援へ新サイト LITALICO開設 日本経済新聞 2018年3月21日

LITALICO（リタリコ）は障害者の就労支援事業所を検索できる情報サイト「LITALICO 仕事ナビ」を開設する。同社が運営する事業所にとどまらず、全国の事業所を紹介。就職を目指す障害者の事業所探しを支援しながら、IT（情報技術）の活用が遅れている業界全体の底上げを図る。目指すのは障害福祉業界のプラットフォームだ。

「仕事ナビ」は障害者と全国の支援施設をつなぐプラットフォームをめざす

リタリコは身体障害者や知的障害者、発達障害者らに、パソコン操作やビジネスマナーなど就労に必要なスキルを習得できる通所型の施設を運営。障害者総合支援法に基づくサービスで、利用者数に応じて自治体や国から報酬を得ている。支援を開始した 2008 年から職を得た利用者は累計で 5 千人を超えた。

リタリコが 26 日にも開設する「仕事ナビ」は同社以外の事業所も対象に、場所や登録者数など基本情報に加え、就職者数や定着率といった事業所の実績も網羅する。紹介ページのフォーマットはすべて統一し、スタッフや事業所の強みを紹介することで利用者にとって最適な施設を選びやすくする。

リタリコは社会問題をビジネスの力で解決しようと、自社のサイトで事業所の特徴や実績を紹介してきた。事業所は全国に 66 カ所あり、問い合わせの半数以上がネット経由という。だが業界全体をみると、障害者らが最適なスキルを学べたり、通いやすかったりする事業所を効率的に探せる方法が限られている。

「残念ながら福祉の業界は 10 年以上変わっていないのが現状だ。IT 業界に例えると、ようやく 00 年代に突入した様子だ」。ディー・エヌ・エー（DeNA）で新規事業開発などを担当した経験もあるリタリコの中俣博之取締役は指摘する。

リタリコが昨年 12 月に、就労支援事業所を探した経験のある 877 人を対象に実施した調査によると、8 割超が「自分にふさわしい事業所の探し方がわからなかった」と答えた。事業所の探し方は「パソコンで検索した」が 65% とトップで、「病院やクリニックなど医療機関と相談した」（47%）を上回る。

一方、事業所では現場の支援員が病院などから就業希望者の紹介を受けるのが一般的だ。ウェブサイトやネット広告を活用して利用者探しを進めようにも、規模の小さい事業所にとっては費用や手間がかかってしまう。

そこで仕事ナビは現場の悩みの解決も目指す。これまで外注することが多かったサイトの開設や運営をプラットフォーム上で一括対応できる。契約は 1 年で、プランは最大で約 5 万円。掲載後の問い合わせ件数などによって料金が変わるが、エントリープランの初期費用はゼロ、月額固定費も無料にするなどハードルを下げた。

厚生労働省によると、就労移行支援事業所は 16 年 10 月時点で全国に 3300 超あり、13 年比で約 30% 増加した。一方で、就労移行支援事業所の 7 割弱が定員に達していないとの調査もある。仕事ナビを通じて利用者の増加にもつながることが期待できそうだ。

リタリコによると、将来は仕事ナビで事業所以外の民間企業の求人情報を掲載するなど、さらに幅広い就労支援を担っていくことも検討している。「ネットの力を使って業界全体に活力を与えたい」。中俣氏が力を込めて言う。（駿河翼）



府教育長に酒井氏 府議会同意 大阪日日新聞 2018年3月24日
酒井隆行氏

大阪府議会は 23 日、3 月末に任期満了を迎える府教育委員会の向井正博教育長（63）の後任に、府福祉部部長の酒井隆行氏（58）を充てる人事案に同意した。任期は 4 月 1 日から 2021 年 3 月末まで。

府は選任理由を「教育を巡る課題に効果的な施策を図ることが期待できる」としている。酒井氏は早稲田大政治経済学部を卒業後、1984 年に入庁。教育委員会事務局教育政策室参事や政策企画部企画室長などを歴任し、13 年 4 月から現職を務

めている。

山形) 障がい者就労支援カフェ「え〜る」 酒田市庁舎に 朝日新聞 2018年3月24日



障がい者就労支援カフェ「え〜る」。営業時間(平日午前11時~午後2時)以外も休憩場所として利用できる=酒田市役所

酒田市役所1階のフリースペース(120平方メートル)が市民憩いの場として23日から通年開放された。そのスペースに、障がい者就労支援カフェ「え〜る」(16席)がオープンした。接客にあたる佐藤洋美さん(44)は、この日に備えてレストランで1週間、給仕などを学んだという。「緊張で心臓がバクバクしているけれど、温かい感じで働ける

のがうれしい」と喜んだ。

「え〜る」は英語で「応援」、仏語で「翼」の意。みんなの応援と自らの翼で障害者が社会に参加していけるようにと願ったネーミングだ。1年前に市議会で「本当に開かれた市役所として障害者が就労できるカフェをフリースペースに設置できないか」との提案があり、市が整備した。

カフェの営業は平日の午前11時から午後2時までの3時間。運営にあたる市内の就労継続支援事業所「障がい者サポートセンターあらた」と「障がい福祉サービス事業所たぶの木」の障害者が2人ずつ交代で働く。昼食用に販売される弁当は地産地消で栄養バランスを考えた「あらた」製。軽食のシフォンケーキやクッキーは「たぶの木」製で、いずれも障害者たちの手作りだ。

フリースペースは年末年始やイベントの開催時を除いて午前8時半から午後9時まで利用できる。(伊東大治)

兵庫県警に人身対策課 親族トラブル、DVに対応 神戸新聞 2018年3月23日

兵庫県警察本部=神戸市中央区下山手通5



兵庫県警は27日発令の人事異動で約60人態勢の「人身安全対策課」を生活安全部に発足させる。親族間や交際を巡るトラブル、児童・高齢者への虐待などが重大事件につながるケースが絶えないことから、事件に発展する前段階で対応し、必要に応じて被害者を保護。未然防止や早期解決を目指す。

計11人の死者・行方不明者を出した尼崎連続変死事件では当初、親族間のもめ事と判断するなど適切な対処ができなかった。こうした教訓から県警は2015年に「人身安全関連事案指導室」を生活安全企画課に設置。各警察署が受理した相談を集約し刑事部と連携して対応してきた。

人身安全対策課はこの指導室を改編。捜査1課の元ベテラン捜査員がトップとなり、増員する。24時間態勢で各警察署の初動支援や指導に当たる。

捜査1課が危険性を視野に対応した人身安全関連事案は14年80件から17年156件と倍増。今年2月に起きた三田市の女性遺体切断事件では行方不明段階で指導室が関わり、観光滞在中の米国籍の男(26)を特定し、逮捕にこぎつけた。(安藤文暁、杉山雅崇)

<タリウム混入事件>精神障害との関連否定 客観的な犯行態様重視

河北新報 2018年3月24日

名古屋高裁には傍聴券を求めて多くの人が集まった＝23日午前9時25分ごろ



殺人罪などに問われ、一審名古屋地裁の裁判員裁判で無期懲役判決を受けた元名古屋大女子学生（22）の控訴を棄却した23日の名古屋高裁判決は、精神障害が犯行に至る経過に一定の影響を与えたとしつつ、犯行の凶悪性との直接的な関連を否定した。重度の障害で心神喪失状態だったとする弁護側の無罪主張を一蹴し、客観的な犯行態様から厳格に刑事責任を負わせた。

判決は、狭く限った興味関心を抱く傾向がある元女子学生の広汎性発達障害に対し「障害があっても関心の対象は人によって異なり、個性と言える」と評価。双極性障害（そううつ病）も絡んだ影響を認めながらも犯行態様と区別して検討し、身勝手な動機や行為の悪質さは本人の思考に由来すると判断。「有期刑では軽すぎる」と断じた。

発達障害が争点化した刑事裁判では、基本的に責任能力を認める傾向にある。統合失調症などと違い幻覚や妄想を伴わないため、近畿法学部の神田宏教授（犯罪学）は「動機の詳細可能性や行動の合理性など、責任能力の判断枠組みに当てはめると発達障害者の心神喪失の主張は無理が生じる」と指摘する。

元女子学生は被告人質問で「今も殺人衝動がある」と供述する一方、「人を殺さない自分になりたい」とも吐露した。これまで計5回の控訴審公判全てに出廷したが、判決公判には姿を見せず、複雑な心理状態をうかがわせた。

高裁は判決で元女子学生の治療の必要性や更正可能性に言及しなかった。人格障害に詳しい精神科専門医の茅野分（ちのぶん）医師（東京）は「刑事責任とは別に、発達障害が事件に影響した点を理解する必要がある。適切な支援を受けられずに凶行を繰り返してしまったことを、社会で受け止めるべきだ」と話した。

高齢者虐待 16年度、69件 全て家族ら養護者 県まとめ /鳥取

毎日新聞 2018年3月23日

県は2016年度の県内の高齢者虐待についてまとめを発表した。市町村などの窓口で寄せられた相談や通報は計140件（前年度144件）。そのうち調査で虐待と判断されたのは69件（71人）と、前年度（81件）から減少した。

虐待とされた69件は、全て家族や親族ら養護者による虐待だった。介護施設職員による事案として15件の相談・通報があったものの、立ち入り調査の結果、虐待とされた例は無かった。内容（複数回答）は身体的虐待62・0%▽心理的虐待43・7%▽経済的虐待25・4%▽介護等放棄23・9%。虐待した人は息子が46・3%と最も多く、夫15・9%、娘14・6%と続いた。

一方、養護者からの虐待に関する相談・通報件数は125件で、このうち介護支援専門員（ケアマネジャー）が最多の30・9%だった。県は、介護関係者向けの研修によって、虐待が疑われる場合に報告するという認識が進んでいると分析する。

県長寿社会課は「引き続き虐待防止の啓発活動に努め、施設の職員や管理者向けの研修を実施していきたい」としている。【小野まなみ】

特養ホームで入浴中の高齢者死亡 職員2人を書類送検 朝日新聞 2018年3月24日

福岡県糸島市の特別養護老人ホームで2016年10月、入所者の女性（当時96）を入浴介助中に過って死亡させたとして、県警は23日、介助を担当した55歳と56歳の

女性職員を業務上過失致死容疑で福岡地検に書類送検し、発表した。

糸島署によると、2人は10月15日午前11時45分ごろ、女性をストレッチャーに乗せて入浴させた際に目を離し、溺れたことを見逃して死亡させた疑いがある。職員1人は女性に背を向けて別の入所者の体を洗い、もう1人は脱衣所で入浴介助の準備をしていた。

浴槽には胸とひざをベルトで固定して入れるが、女性は足が悪く、胸のベルトだけを使用。職員が女性の体を洗った後に再度固定して入浴させた。4分ほど目を離した間にベルトが外れ、頭が湯船に沈んでいた。2人は「原因は女性から目を離したことにあります」と話しているという。

施設では15年5月、入浴中に入所者の女性（当時87）がストレッチャーから転落して亡くなる事故が起きている。施設側は署に対し「職員には入浴介助中は目を離さないように指導していた」と説明している。

障害者の避難受け皿に 安佐北区亀山南、社福法人が来月介護施設



中国新聞 2018年3月24日
■間仕切りをして避難スペースを設けた亀山さくら園の1階部分



広島市安佐北区亀山南で障害者就労施設を運営する社会福祉法人やぎは、災害時に通所者を受け入れる機能を備えた生活介護施設を4月にオープンする。精神障害者が安心して避難できるよう間仕切りで「個室」をつくる仕組み。24日、地域にお披露目する。

施設は「亀山さくら園」で木造2階建て延べ約370平方メートル。1階部分を高さ2・2メートルの間仕切りで隔て、4メートル四方のスペースを八つ設けて通所者を受け入れる。

深谷市民ら4000人が村岡選手を祝福 市民栄誉表彰式&平昌パラリンピック報告会



東京新聞 2018年3月24日
深谷市役所前で大勢の市民が村岡選手を出迎えた＝深谷市で

平昌冬季パラリンピックのアルペンスキーで金メダルなど計五つのメダルを獲得した村岡桃佳（ももか）選手（21）＝早稲田大＝の出身地・深谷市で二十三日、市民栄誉表彰式とパラリンピック報告会があった。市役所前の式典会場には市民ら四千百人（主催者発表）が詰め掛け、平昌パラのヒロインに祝福の声援や拍手を送った。（花井勝規）

式典のあいさつで村岡選手は「四年前に初めて出場したソチパラリンピックでは悔しい思いをした。次こそ絶対メダルを取るぞと臨んだが、まさかこんなに持って帰って来られるとは。夢見心地な気分です」と晴れやかな表情を見せた。

四歳からの車イス生活に触れ「スポーツに出会って自分自身がすごく変わった。歩けない自分が嫌だったが、それが自分なんだとやっと認められるようになった」と語った。

式典後の記者会見で、五つのメダルをかけてあげた兄に泣かれたエピソードを披露、「こんなにも妹を大切に思ってくれているんだ」と感激した様子だった。

式典で小島進市長は「桃佳ちゃんの活躍は多くの人に勇気と希望を与えた。四年後は北京大会で全部金メダルを狙ってもらおう」と述べ、市民榮譽賞の表彰状や記念品を授与した。

市民榮譽賞表彰式・平昌パラリンピック報告会で観衆に五つのメダルを見せる村岡選手＝深谷市で

市は「村岡選手に続け！ 障害のある子どもの夢を応援しよう」と、ふるさと納税の仕組みを使い障害児スポーツなどを支えるクラウドファンディングを始めた。

寄付の募集は五月二十二日までで、目標金額は二百万円。寄付額五千円以上で村岡選手の地元川本地区にある障害者福祉サービス事業所で作られた県産ヒノキの箸などが返礼品として贈られる。問い合わせは深谷市企画課＝電 048 (574) 8096＝へ。



知的障害者スキー 世界選手権 クロカンミックスリレーで弘前・阿部選手が銅 市長に報告 /青森

毎日新聞 2018年3月24日

ポーランドで開かれたINAS（国際知的障害者スポーツ連盟）スキー世界選手権（2月25日～3月2日）に初出場した弘前市の阿部昂平選手（25）が、クロスカントリースキー競技男女ミックスリレー（2・5キロ×3人）で銅メダルに輝いた。23日に葛西憲之市長を表敬訪問し、同大会で県勢初のメダル獲得を報告した。阿部選手は、弘前大教育学部付属特別支援学校を卒業後、弘前市の介護老人保健施設「平成の家」に勤務し、3年前からスキーを始めた。今大会では団体と個人の4種目に出場し、男子リレー（2・5キロ×3人）でも4位に入る健闘を見せた。県立森田養護学校高等部教諭の石田千里コーチらと市役所を訪れた阿部選手は、葛西市長に銅メダルを披露し、「4年後の北京パラリンピック出場を目指して頑張ります」と抱負を語った。パラリンピックを巡っては、2000年のシドニー夏季大会の知的障害者バスケットボールで、スペイン代表に健常者がいた不正行為が発覚。それ以降、知的障害者の選手は冬季大会に参加できなくなっている。阿部選手は取材に対し、「各国の選手はみんなパラリンピック出場を目指している。多くの人たちに知的障害者スポーツを知ってもらおうことが復活につながると思う」と話した。【藤田晴雄】

ナレッジキャピタル 5周年 大阪人の知的創造、促進 /大阪

毎日新聞 2018年3月23日

コミュニケーターと活動を語り合う野村卓也さん（左端）と宮原秀夫さん（右から2人目）＝大阪市北区のナレッジサロンで、中尾卓司撮影



大阪市北区のJR大阪駅側うめきた地区に誕生した「ナレッジキャピタル」（知的創造・交流の場）は4月、5周年を迎える。一般市民や研究者、起業家らさまざまな職種の人が知的好奇心を刺激し合う場として定着した。4月には2日間限定のイベント「ナレッジキャピタル大学校」も開かれる。一般社団法人ナ

レッジキャピタル代表理事の宮原秀夫さんは「いろんな学びに出会える場を目指したい」と話していた。【中尾卓司】

会員制のナレッジサロンは2000人の会員を維持し、知的創造・交流を促進する「新しいモデル」と捉えて海外から視察も相次ぐなどにぎわっている。サロンを中心に、会員と会員をつなげる役割を担う若いスタッフが「コミュニケーター」だ。海外留学の経験者や大阪以外からも応募があり、新しい職種として注目されてきた。

イノベーション（新しい価値の創造）が芽生える場を追求し、産業創出、文化発信、国

際交流、人材育成の四つのミッションに取り組んだ。これからは、ひとづくりに重点を置き、教育に注力したいという。総合プロデューサーの野村卓也さんは「リカレント教育（学び直し）や生涯教育が広がっているように、社会参画につながる学びの形を提案したい」と語る。

5年間で積み重ねた成果について、宮原さんは「文化や科学を含めて、新しいものに触れる大阪人のマインドを呼び起こし、人的なネットワークを構築できた」と振り返る。今後の展開については、「人と人の交流が深まり、研究成果を社会課題に応用して、知的好奇心を共有し合うことが新しい発見につながる。この場をさらに広く浸透させたい」と説明する。

ナレッジキャピタル大学校は、仕切りもない広い空間の会場で10コマの講義が同時に進行する形で開かれる。ナレッジキャピタルの活動に参画してきた講師「ナレッジパーソン」の100コマの講義が準備されている。宮原さんは「リベラルアーツ（一般教養）の大切さが改めて認識される時代に、体感型の学びの場に参加してほしい」と呼び掛けている。

失われた体 精緻に再現 エピテーゼ手掛ける田村さん 特別賞受賞



上毛新聞 2018年3月24日
「輝く自分になれるように、明日の笑顔を作るお手伝いをしたい」と話す田村さん

生まれつきや病気、事故などで体の一部を失った人が、体の表面に取り付けて外見の回復を図ることができる人工ボディ「エピテーゼ」を手掛ける田村雅美さん（35）＝群馬県甘楽町＝が、全国の女性起業家によるビジネスプランコンテスト「ウーマンズビジネスグランプリ」の決勝ファイナルに出場し、特別賞を受賞した。田村さんは「受賞をきっかけに、より多くの方にエピテーゼの情報を届けたい」と話している。

◎「輝く自分になれるよう お手伝い」

グランプリは、品川区立武蔵小山創業支援センター（東京・品川）などが主催し、女性の起業活動を応援している。7回目の今回は、全国各地の78人が応募した。

田村さんは2005年に渡米した際、戦争で体の一部を失った元兵士が人工ボディを使って前向きに生きる姿に出会い、「手術以外でも人は回復することができる」と衝撃を受けた。帰国後、歯科技工士として働いていたが、友人が乳がんで乳房を失ったことがきっかけとなり、「選択肢の一つとして当事者の方にエピテーゼを伝えていきたい」と起業を決意した。

昨年1月、エピテーゼを手掛ける「エピテみやび」を立ち上げた。シリコン製で、肌の色や血管など見た目が本物そっくりのエピテーゼを製作し、乳房や指を失った人、性同一性障害がある人へのサポートに力を入れる。「まずは触って身近に感じてもらいたい」との思いから、富岡市の富岡製糸場にちなんでシリコン製のカイコのマスコットをアート関連の展示会に出品するなどして、多方面で情報発信に取り組んでいる。

田村さんは「付け外しのできるエピテーゼを、眼鏡やウィッグ（かつら）のようにおしゃれ感覚で気軽に使ってもらいたい。生活を楽しむための選択肢の一つになればうれしい」と話している。



月刊情報誌「太陽の子」、隔月本人新聞「青空新聞」、社内誌「つなぐちゃんベクトル」、ネット情報「たまにブログ」も
大阪市天王寺区生玉前町5-33 社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所発行